

令和4年3月 学校長だより 高千穂高校

令和4年3月1日

「私だけでは成しとげられなかった」 高木美帆（スピード スケート）

「温かく優しい言葉で励ましてもらった」 高梨沙羅（スキー ジャンプ）

「人生報われることばかりがすべてじゃない 今が幸せ」 羽生結弦（フィギュア スケート）

校長 佐伯浩美

テレビに向かい、家族で声援を送り続けた冬季五輪北京大会は、兄弟姉妹が多く出場し、活躍する大会であった。「親は、嬉しいだろうな」そんな思いで競技を見ていた。スキージャンプ小林兄弟は弟が金。スノーボードでは、平野兄弟の兄が金、富田姉妹は、姉が銅。渡部兄弟の活躍でノルディック複合団体は、28年ぶりの銅。高木姉妹出場、二連覇間違いなしのスピードスケート団体追い抜き、まさかの転倒で銀。妹の美帆が獲得した金1・銀3の4メダルと前回五輪の3つを合わせた7個は、日本人最多のメダリストである。あっぱれ！すごい。我が子は皆等しく可愛い、兄弟姉妹での出場は鼻高々であろう。自慢の子がいる親戚や地域の大喜びが目に見え、オリンピックに限らず、何でも我が子の活躍は、親に活力を与える。

画面越しに多くの方が、必死で戦う自国代表選手の頑張りを応援したことだろう。そして、日本の選手達は、勝敗に関係なく皆、「応援いただきありがとうございます。」「皆さんのお陰でこの舞台に立つことができた。」と周囲への感謝の言葉を述べていた。

スキージャンプでは、上手く跳んだ選手を見て、グータッチをするコーチらしき人達が、テレビに映された。カーリングでは、コート氷面上の状態やストーンの癖を深夜にチェックし、選手に情報を伝える補欠選手の姿が取り上げられていた。トレーナーや栄養士等、多くのスタッフが大会に帯同している。選手の記録を高めるために、ユニホームや道具を研究し開発する人達もいる。選手は多くの人達に支えられ大会に臨んでいる。試合結果の裏には表に出てこない戦いがある。スキージャンプ高橋沙羅は、「チームメート、スタッフ、温かく優しい言葉で励まし続けてくれた各国・地域の選手・スタッフ、皆さんに助けられた」と感謝の言葉を述べている。

不運もあった。氷の穴につまずき規定通りの演技ができずに、三連覇の夢が閉ざされたただフィギュアの羽生結弦は、「努力と結果の意味や価値について深く考えさせられる、これからの人生にとっても大切な時間となった」そして、標記の言葉を残している。奥の深い言葉に感動する。

勝負では、ライバルの脱落やミスを望むこともある。カーリング決勝では、イギリスのミスを望んだ日本人は多かったのではないだろうか？ 日本の応援者が相手のミスを望めば、逆にイギリスのショットが冴えたようにも思えた。残念だが第7エンドには、決定的な日本の4失点で金メダルは4年後の大会へ持ち越しとなった。

嫉妬心や欲を捨て去り、ライバルへ尊敬の心で接し、正々堂々と真っ向勝負で競い合いながら、お互いを高める姿にこそ感動がある。素直な心で応援すれば、自分も自然と応援されるようになる。人に何かを与える人が、人から何かを与えられる。精一杯こころの底から応援して感動を味わえば、感動から希望や勇気が湧いてくる。これこそ、スポーツの魅力であり素晴らしさであることを、再確認したオリンピックであった。

魅力化推進委員会総会・学校運営協議会が開催される

2月4日(金)高千穂高校魅力向上推進委員会総会がT-LABOで開催された。昨年2月に生徒減少で衰退する本校に魅力づくりを推進し、活性化させることを目的に同委員会(会長:高千穂町長、副会長:日之影・五ヶ瀬町長)が結成された。4月から高千穂町役場総合政策課の田崎友教さんが毎週木曜日来校し、本校の先生方と魅力づくりについて議論(MK委員会:ミヨコウジヨウの略)している。学校パンフレットや学校紹介チラシの作成、ポータルサイト開設(裏面)等、地域へ本校の認知度を高める広報を積極的に行ってきた。次年度へ向けて、地域おこし協力隊員の高校配置やG I A H Sを取り入れた探究活動等でさらに高千穂高校ならではの魅力が増えていく。

2月15日(火)今年度2回目の学校運営協議会を行った。吉田先生は、生徒達が地域と連携した活動の報告と在校生が、西臼杵に定住することや外に出た後の帰郷希望率が高いことを委員に紹介した。意見交換では、「高校の先生から中学生に向けて、夢や進路に関する話(職業選択、大学入試制度)をしてもらえないか」や「高校生のユニークな活動を高千穂テレビで広報してはどうか」等のご意見を多数ちょうだいした。